

科目名	観光研究入門	単位数	2	授業形態	講義	担当 教員	天野 景太 (文)
英語表記	Introduction of Tourism Study						

### ● 科目の主題

「グローバル化・ボーダレス化社会における現代観光のナゼ？」をテーマとした観光研究に関する導入的な科目である。観光の歴史と現在に関して概観した後、それらを研究するための視点と方法に関して検討する。前半（第2～7回）は、観光の歴史的展開や、観光という現象が現代社会において成立している背景に関して考察する。中半（第8～10回）は、現代日本の国内・国際観光の実態に関して、各種の調査データ等に基づきつつ概観する。後半（第10～15回）は、観光研究の視点と方法に関して、人文・社会科学的なアプローチを中心として、いくつかの具体的な研究成果を紹介しつつ説明する。

### ● 授業の到達目標

21世紀は「観光の世紀」と謳われ、多方面から着目されている。このような中で、安易に時流に飲まれたり、目先の現象だけに囚われたりすることなく、総合的（幅広い視野から）、相対的（距離をおいて）に、観光現象の本質を捉えるセンスを持てるようにする。

### ● 授業内容・授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「観光」とは何か～観光を定義する
- 第3回 旅と観光の社会史Ⅰ～古代から近世に至るまでの“旅人”の相克
- 第4回 旅と観光の社会史Ⅱ～近代マス・ツーリズムの誕生
- 第5回 旅と観光の社会史Ⅲ～近代マス・ツーリズムの展開とポスト・マス・ツーリズム
- 第6回 現代観光を支える社会のしくみ～多文化の繋留・混交点としての駅・空港・世界都市…
- 第7回 観光地はなぜ「観光地」なのか～観光地イメージの構築と、観光資源の類型
- 第8回 現代日本人の観光スタイルを探る～国

際観光アウトバウンド編

- 第9回 日本を訪れる外国人観光客の特徴～国際観光インバウンド編
- 第10回 観光政策の役割と「観光立国」論
- 第11回 観光研究の視点と方法Ⅰ～観光者の心理と行動をつかむ（観光心理学）
- 第12回 観光研究の視点と方法Ⅱ～自然景観や文化表象の意味や価値をめぐって（観光人類学・文化経済学）
- 第13回 観光研究の視点と方法Ⅲ～観光地域をデザインする（観光まちづくり論 理論編）
- 第14回 観光研究の視点と方法Ⅳ～観光地域をデザインする（観光まちづくり論 実践編）
- 第15回 観光研究の視点と方法Ⅴ～楽しみ（愉しみ）方をデザインする（観光メディア論）

講義形式で展開し、毎回写真や映像資料など、ビジュアルな資料を豊富に提示する予定である。板書は基本的に行わないので、内容をリアルタイムに考察、整理しながらメモ等をとっていく姿勢が求められる。

### ● 事前・事後学習の内容

授業の最後に毎回クイズを出題します。次回授業時までには調査し、回答を考えておくこと。

授業後、その日の授業内容に関して文章化し、自分の考えとともにノートにまとめておくことと良い。また、日頃から主体的に身近な観光体験を客観的に考えてみる習慣をつけること。

### ● 評価方法

毎回授業の最後に、コミュニケーションペーパーにその日の授業内容を受けての自らの考察、感想を記してもらおう。コミュニケーションペーパーへの回答による平常点（30%）、と期末試験（70%）で評価する。ただし、コメントペーパー

への回答数（≒出席数）が通算で 11 回未満（出席率 70%未満）の場合、原則として評点にかかわらず F 評価となる。なお、正課授業の課外活動、病気、就職活動等でやむを得ず欠席する場合、出席率への配慮はするが（コミュニケーションペーパーへの回答無き場合）平常点の加点は行わない。

#### ● 受講生へのコメント

観光研究は、その制度的側面（法学）、経済・経営的側面（商学・経済学）、社会・文化的側面（社会学・文化論）、工学的側面（地域・景観計画）、福祉・医療的側面（ソーシャル・ツーリズム）など、さまざまな視点からの学際的なアプローチが要請されている研究分野である。旅行が好きな人、将来観光に関連する進路を目指す人、演習等で観光分野の研究を志向する人をはじめ、幅広い学部からの履修を歓迎したい。

#### ● 教材

安福恵美子編(2016)『「観光まちづくり」再考』  
古今書院

毎回教場にてプリントを配布する。原則として過去の授業で使用したプリントの再配布はしない。